

Social: 社会性報告

当社創業者の理念である「我社の本領は最大の会社たらしめんとするにあらずして常に良品を製造する会社で有る事」すなわち、『当社は大きな規模でなくて良い、いつの時代でも良品を造り続ける』という考え方は、本業の生産活動だけでなく、あらゆる活動において一歩一歩地道に積み重ねる風土として根付いてきました。この社会性報告では、ステークホルダーの皆様との関わりについて、『地域社会とともに』や『国際交流』など様々な項目から当社の取り組みを報告します。

『人』を中心に 信頼される企業を目指す

総務人事部 担当
専務執行役員
筏津 謙二



本音の『対話』で働きやすい環境をつくる

当社の企業活動は得意先やサプライヤー、地域の皆様、そして社員、家族などあらゆるステークホルダーの皆様に支えられ、成り立っています。そのことを認識し、今後とも信頼されるための行動を社員一人ひとりが日常の中で実践していくことが社会人、企業人としての責任です。一方で、働き方改革が進められ、短時間で生産性の高い働き方が求められています。当社では、労使一体で上司と部下のコミュニケーション強化を図り、本音の対話を通じて仕事の効率化を進めるとともに働きやすい環境づくりに努めています。

ゼロベースで仕事を見直し効率化を促進

2020年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界中で様々な影響が発生しました。当社においても、感染拡大防止のため在宅勤務やWEB会議の普及、職場環境の整備など人と人との接触を極力避ける対策を推し進めてきました。今まで当たり前だった時間・労力を掛けていた仕事をゼロベースで見直すチャンスとなり、仕事の効率化を促進することができました。コロナ収束後も有効なものは継続して定着させ、『人』を育てることで会社の基盤を強化していきます。そして、企業としての社会的責任を果たすことで、より多くの皆様から信頼をいただけるよう一層のレベルアップを図っていきます。

地域社会とともに

『よき企業人である前によき地域住民でありたい』という考え方から、継続的な地域貢献活動に取り組んでいます。

誠和寮交流イベント(※)

誠和寮の寮生が中心となって、地域観桜会を始めとするイベントを企画・運営しています。寮生一人ひとりに地域住民であるという自覚を促すとともに、地域の皆様に楽しんで参加していただき、感謝の声をいただいています。



地域産業を担う人財を育成(※)

地域産業を担う人財育成の一環として、地元の工業高校生の企業内実習を受け入れています。実習では、3DCADを活用した設計業務の体験を実施しています。



PBL COIL-Cプロジェクト

南山大学と連携し、2019年から『PBL COIL-Cプロジェクト』に参加しています。これは、南山大学の学生が海外協定校の学生や一般企業と連携して課題に取り組むカリキュラムです。学生達は『未来の車のカタチを提案する』をテーマに、10年後の未来を想定し新しい商品企画のアイデアを発表。国内外の学生の視点や考え方の違いを理解し、共有する機会となっています。



新型コロナウイルス感染症対策に貢献

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、豊田市、みよし市にフェイスシールドを寄贈しました。これは、当社のアライアンス先が感染拡大防止の緊急対策として生産したものです。また、日本政府へゴム手袋の調達支援として、10万枚以上のゴム手袋を送りました。フェイスシールド、ゴム手袋ともに医療機関などに供給され、感染症対策に活用されました。



地元小学校との交流

黒笹技術センターでは、地元・黒笹小学校の児童が登校する際に、横断歩道等で見守り活動をしています。この活動は10年以上続いており、2020年には児童手作りの感謝状をいただきました。また、同小学校で実施されたキャリアワークショップに小島総合研究所の社員が参加。樹脂の研究について講話し、児童は研究職の仕事内容について知識を深めました。



挙母神社清掃(※)

地域貢献の一環として、地元・挙母神社の境内清掃活動を毎月実施しています。社員と誠和寮寮生が参加しており、2020年で29年目を迎えました。



こじま福祉会の活動

1971年、現在のこじま福祉会の前身である社会福祉法人『小島会』が設立され、福祉活動を通じて様々な社会貢献活動に取り組んできました。

■ 園児が町の防犯活動の一役担う

こじまこども園は豊田市内で人気が高いこども園で、2016年には『子どもにとって最高の安心・安全』をコンセプトに木造平屋建ての園舎が完成しました。また、地域防犯活動として、園児による『ちびっこパトロール』を定期的実施。2020年2月には豊田警察署による『防犯・交通安全キャンペーン』に参加し、地域住民に防犯・交通安全を呼び掛けました。



■ 地域への恩返し(※)

こじまキャンパス、豊田市さくらワークスでは、従業員が地域の一員として活動の幅を広げ、身体に障がいがあっても積極的な姿勢で社会への参画と奉仕を実践しています。ボランティア活動では、防犯パトロールや立哨活動、地元・拳母神社の清掃などに取り組んでいます。



地元・拳母神社清掃

■ 上郷地区交流会(※)

こじまキャンパス、豊田市さくらワークスでは、毎年近隣地区の民生委員、福祉委員の方々を招き上郷地区交流会を開催しています。交流会では演舞の披露やゲームを実施。2019年にはパラリンピックの正式種目である『ボッチャ』大会を開き、日頃練習を積んだ従業員が参加した方々にルールやコツを教えるなど、交流の場となりました。



また、地域で働けることに対する感謝の気持ちを伝えるため、毎年『自立と感謝のつどい』を開催。イベントの司会から演舞披露や楽器演奏を従業員が務めています。



自立と感謝のつどい

VOICE



安心・安全に過ごせる感謝を込めて

豊田市さくらワークスに入所して以来12年間、拳母神社の清掃を実施しています。日々安心・安全に過ごせることへの感謝を込めて清掃に参加していますね。地域の方や参拝に来た方が気持ちよく過ごせるよう、今後も地域住民の一人として活動が続けていきます。

豊田市さくらワークス 福島 采(あや) さん

国際交流

当社の国際交流活動は1984年に留学生を受け入れたことからスタートしました。同年、(財)コジマ国際育英協会(現・一般財団法人コジマ財団)を設立し、アジアを中心に多くの留学生を受け入れています。

中国への募金活動

2020年2月に、会社と労働組合が合同で新型コロナウイルス撲滅活動への募金活動を実施しました。集まった募金は会社の義援金とともに、中華人民共和国駐名古屋総領事館を通じて中国の医療活動への支援に活用されました。



総領事館より感謝状が贈られた

中国青海省・奨学金奨励金授与式

1990年より、将来の青海省を担う優秀な若者に対する人財育成の一環として、中国青海省・小島奨学金奨励金授与式を実施しています。2020年9月に30年目となる授与式が開かれ、日中友好の懸け橋となることを期待し60人の学生や青年教師に奨学金・奨励金を授与しました。



コロナ禍のため小島社長によるビデオメッセージが送られた

こじま留学生寮の提供(※)

一般財団法人コジマ財団ではアジアを中心に各国から留学生を受け入れ、留学生寮を提供しています。2020年までに326人が入寮。近隣の根川小学校で文化体験をするなど、留学生と地域児童の交流の懸け橋にもなっています。また、フィリピンやアルゼンチン、ブラジルでは卒業生が集まる『こじま会』を開催。当時の話や近況報告に花を咲かせ、交流を深めています。



青海日本文化交流のつどい(※)

2011年より毎年、中国青海省の小島基地にて青海日本文化交流のつどいを開催しています。当社で研修を終えた小島技能実習生や南山大学生が中心となって『お点前』を披露するなど、日本文化を紹介し交流を深めています。



青海省短期留学生の受け入れ(※)

2014年より、青海省短期留学生を受け入れています。オール小島の製造現場や日本の名所を見学してものづくりや日本文化への関心を高め、留学生との和を広げています。



お客様とともに

トヨタ自動車㈱を主要取引先として、
『常に良品を造り続ける』会社であり続けるために、
オール小島一丸でQCDを意識した良いものづくりに取り組んでいます。

トヨタ自動車より表彰



トヨタ自動車㈱より、当社の2020年度の取り組みが評価され、『品質管理優秀賞』、『原価改善優秀賞』、『Smart Standard推進優秀賞』、『VA推進優良賞』を受賞しました。なお、原価改善優秀賞は今年で41年連続受賞。今後もより安くて良い製品を提案し、得意先にとって『無くてはならない存在』を目指します。

プロジェクト表彰を受賞

2020年2月にラインオフした『ヤリス』搭載の『世界初意匠自由度の高いレジスタ開発』においてトヨタ自動車㈱より『技術の部』を受賞しました。基本性能を確保しつつ、これまでにない新しいインパネ意匠を実現したことが評価されました。また、同年6月に発売された『ハリアー』搭載の『RRコンソール』が『原価の部』を受賞。ひじ置き部分の表皮一体発泡成形やヒンジ用の材料開発により、原価を低減したことが評価されました。



ヤリス搭載のレジスター

ハリアー搭載のコンソールボックス

SSA現地確認会

トヨタ自動車㈱を招き、SSA*現地確認会を実施しています。SSAは、ユーザー目線で自動車部品の品質・性能の基準を適正化する活動。2020年はオール小島だけでなく当社のサプライヤーでも開催され、合計6回、184件の事例を検討しました。基準正当化について即断即決することで、迅速な生産ロス改善につなげています。



* SSA…Smart Standard Activity

トヨタ生産方式自主研究会

2020年9月～11月、トヨタ生産方式自主研究会が高岡工場で開催されました。製品の運搬作業において、持つ、運ぶなどの製品に触れる手掛け作業の低減に取り組み、生産性を向上することができました。



サプライヤーの皆様とともに

『自動車部品づくりを通して社会に貢献する』ため、
革新的かつ高品質な製品の提供を目指し、サプライヤーの皆様と協力し、
より良いものづくりに取り組んでいます。

仕入先展示会^(※)

未来のモビリティ社会に向け、新たな仲間づくりの構築を目指し、社内における仕入先展示会を実施しています。2020年は4回開催され、14社の製品や取り組みを展示。新たな展示方法として、会場の説明員を最小限に絞り、タブレットでのチャットツールを活用した意見交換を実施しました。



防火点検活動^(※)

サプライヤー各社の安全な職場づくりを目的に、消火栓の管理方法や避難場所の明示などを確認する防火点検活動を実施しています。また、改善内容をオール小島サプライヤーポータルサイトで横展開することで、安全な職場づくりの理解を図っています。



仕入先講習会(射出成形作業講習)^(※)

当社の社員が講師となり、三河地区のサプライヤーを対象に仕入先講習会を開いています。『射出成形作業』の技能や知識の向上を図るため、学科講習や、テクノハマの設備を利用した実技講習を実施しています。



オール小島品質管理大会・オール小島仕入先総会

お客様の期待に応えるため、サプライヤーを含むチーム小島で品質レベルの向上に向けて一丸となり取り組んでいます。毎年、サプライヤーの皆様にも参加していただくオール小島品質管理大会やオール小島仕入先総会では、品質活動方針などを展開し、品質レベルの高い会社を表彰。また、2020年のオール小島仕入先総会後には、より活動の理解を図るため、各部門の報告事項をパネルで展示し質疑応答の時間を設けました。



VoIcE



展示会でより専門性の高い意見交換が可能に

コロナ禍で例年通りに仕入先展示会が実施できない中、チャットツールを活用した展示方法で開催しました。展示内容ごとにタブレットを設置することで、各内容に特化した技術担当者に対応していただき、より専門性の高い意見交換ができるようになりました。また、社内のニーズをもとにサプライヤーに準備していただいた5テーマのプレゼンをWEB上で開催。場所に縛られることなく、興味がある内容を効率的に情報収集できる展示会にしました。

調達部 部品調達室 内外装部品調達課 課長 熊瀬 智己

社員とともに

当社は社員が自分の仕事に誇りや自信を持って働くことができる『明るく楽しい職場』づくりを目指しています。そのため、社内行事を通じてコミュニケーションの促進や、人財育成による一人ひとりのレベルアップを図っています。

創立82周年記念式典(※)

当社は創業者の教えの一つとして『フシを大切にすること』を徹底してきました。これは、会社や人生の節目で自己を見つめ直し、次への成長に確実につなげていくためです。会社の創立記念も重要な節目であると考え、毎年式典を実施。2020年は会社役員と労働組合三役、永年勤続者の代表者が参加のもと創立82周年記念式典を開催しました。



こじまフェスティバル

毎年10月、オール小島やわらぎのつどい〜こじまフェスティバル〜を開催しています。2020年は特設WEBサイト上で開催。社員による投稿動画や特別物販サービスなど、オール小島の社員と家族で盛り上がりました。また、社員や家族、海外アライアンス全員でエコキャップアートを作成。集まった360,355個のキャップは、『NPO法人世界の子どもにワクチンを』を通じて2,819本のワクチンとして寄付されました。



完成した
エコキャップ
アート



▲全社員で一つの巨大な
エコキャップアートを作成した

小集団活動

2020年から製造部門を中心に、QCサークル活動を再構築した『小集団活動』を実施しています。これは、会社方針を達成するための改善テーマに合わせて、所属部署にこだわらずフレキシブルにメンバーが集まり、協力して改善を達成することで成果につなげていく活動です。改善を通じて新しい技能・知識の習得や、他部署・前後工程との連携により、一人ひとりが成長できる人財育成の場となっています。



こじま教育センター

社員が自身の成長を感じ、仕事に自信と誇りを持ち、明るく楽しく働くことで会社も成長する、そのような健全な関係を構築するために、教育体制に力を入れています。こじま教育センターでは87種類の講義を開催。61人の社員が講師となり知識や技能を教えることで、教える側と教わる側がともに成長する『人財共育』を実施しています。



技能五輪全国大会

2020年11月、愛知県で開催された第58回技能五輪全国大会において、機械製図職種の愛知県代表として当社総務人事部の改森翔太さんが出場。全国大会の舞台で全力を尽くしました。



SO+ZO Hub

2020年、既存の枠組みにとらわれず、小島の新たなビジネスを創造するプロジェクトとして『SO+ZO Hub』を立ち上げました。様々な部署からメンバーが参加し、当社の未来について議論を重ねることで、新事業の創出を目指しています。



PICKUP

労働組合の活動(※)

労働組合では働きやすい職場環境を目指し、労使一体となって様々な活動に取り組んできました。年3回実施しているいきいき職場指標アンケートの結果をもとに、いきいきプロジェクトで基幹職と組合役員が話し合い、より良い職場の風土づくりを進めています。活動の中で見てきた上司と部下のコミュニケーション不足を解消するため、執行役員との昼食懇談会や、社員の資質向上を目的に設けられた『有効活用時間』での話し合いを実施しました。本音で話し合う場を設けることで、互いの連携を深めるためのきっかけづくりに取り組みました。

また、毎年恒例のスポーツフェスティバルや日帰りバスツアー、親子ふれあい工作教室などを通じて、組合員同士や家族の絆を深めています。



有効活用時間での話し合い



日帰りバスツアー



親子ふれあい教室



(※)…新型コロナウイルス感染症対策として、2020年は規模を縮小、または開催を見送り

心身の健康維持・増進

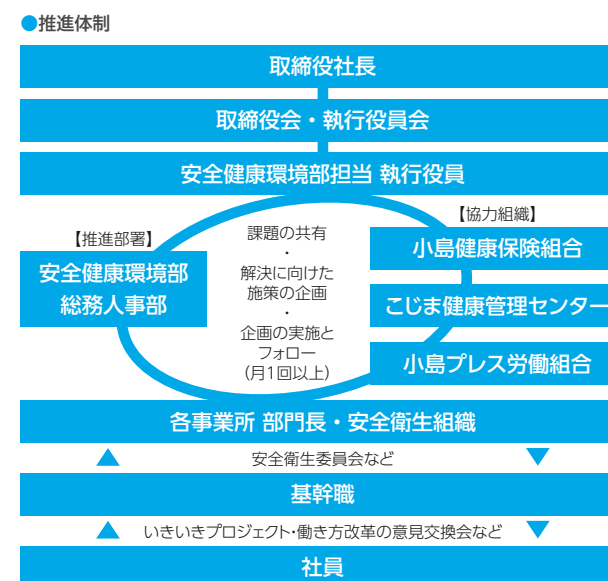
『明るく楽しい職場』を実現し、活気ある企業活動を推進するためには、社員一人ひとりの心身の健康が基盤となります。当社は1998年4月に『こじま健康管理センター』を設立。医師・看護師・臨床心理士・運動トレーナーなどの専門スタッフを配置し、家族を含めた施策を、会社と健康保険組合が一体となって展開しています。

健康宣言 『人をつくり 人をまもる』の精神で 健康を推進します

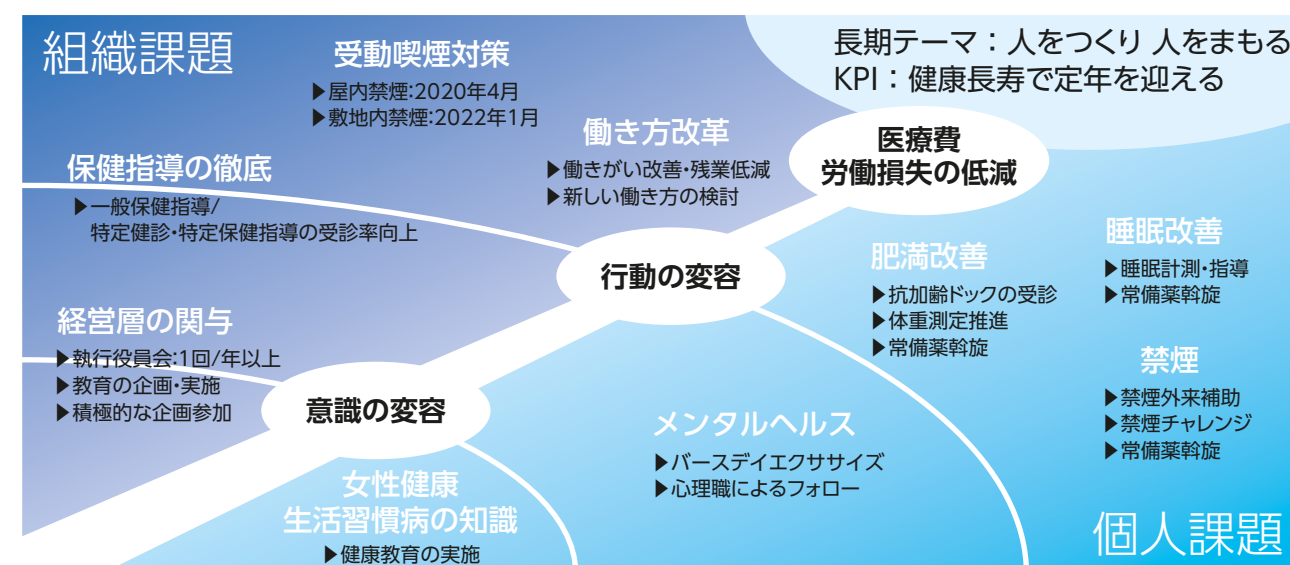
健康への考え方

当社は、長期テーマとして『人をつくり 人をまもる』を掲げています。企業活動の原点は『人』であり、社員一人ひとりの心身の健康は、当社の経営を支える最も重要な財産です。全社員が心豊かに、また健やかに定年を迎えることが願いです。自動車業界が大きな変革期にある中で、自分の仕事に誇りを持ち、自信にあふれ、常に目標にチャレンジし続けられる『明るく楽しい職場』を目指しています。その基本となる心身の健康を支えるため、小島健康保険組合と連携し、従来の疾病予防対策や法令順守はもとより、健康寿命を延ばす先制医療の考え方を取り入れた活動に積極的に取り組んでいきます。

取締役社長
小島 泉二



小島プレスの健康課題と目指す姿



新型コロナウイルス感染症対策

■社内での対策

職場での飛まつ防止や食堂でのビニール手袋の着用など、『今できること』に全社一丸となって取り組みました。消毒液の設置や日々の体調確認はもちろんのこと、職場での密を避けるため、Web会議やチャットツールの活用、時差出勤の推進などが進み、働き方の見直しにもつながりました。



■オンライン保健指導

一般保健指導の対象者が、コロナ禍においても保健師の専門的な指導を受診できるよう2020年はオンラインツールを活用して実施しました。新たな生活様式の中でも、保健師と直接やり取りできる環境を守ること、社員の健康と精神的な不安を取り除くことに努めています。



■リモートエクササイズ

運動する機会場の場づくりとして、2014年からリフレッシュエクササイズを実施しています。隔週で、ヨガやエアロビクス、太極拳が開催され、2018年には基幹職を対象にパースデイエクササイズを実施。これは、会社の中核となる基幹職が誕生日の月に各エクササイズに参加し、

率先して健康維持・促進に取り組むことで、会社全体の健康増進を目指しています。2020年は密を避けて実施するため、オンラインで配信するリモートエクササイズがスタートしました。



2019年度の様子



2020年度の様子



リモートエクササイズ

VoIcE



毎週の運動で運動習慣が定着

2015年からリフレッシュエクササイズのエアロビクスに参加しています。毎週楽しく体を動かすことができ、自然と運動習慣が定着しています。元気な会社生活を支える大切なルーチンの一つですね。リモートエクササイズという新しい形をしっかりとPRして、全社的な健康増進につなげてほしいです。

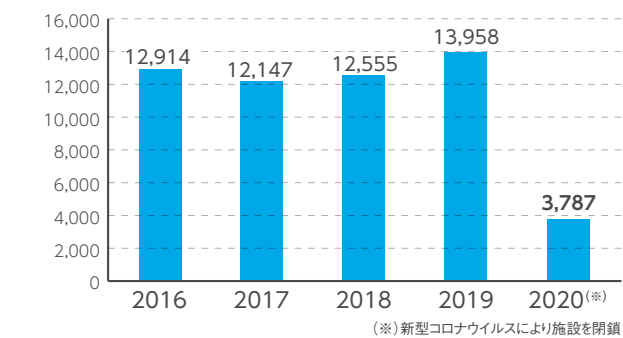
技術統括部 技術管理課 主幹 小松 浩之

こじま健康管理センターとの連携

●こじま健康管理センター事業内容図

対象者		診療科目
抗加齢 ドック	30歳から55歳まで 5歳刻みで被保険者 (女性は25歳から)	標準コース
	被扶養者	ライフスタイル改善コース 臨床心理士フォロー面談 被扶養者コース
内科疾患	急な体調不良者	内科診療
健康相談	希望者	健康相談
復職者	必要な方	リワークコース
予防接種など	会社指示	トヨタ出向者健診、海外渡航者予防接種
産業医関連	会社指示	復職面談、高残業者健康管理など

●こじま健康管理センター年間利用述べ人数(人)



禁煙サポート

禁煙を支援するため、2019年4月より『禁煙外来補助制度』や、禁煙に向き合うきっかけとして、禁煙希望者が支援者とペアになり連続30日間の禁煙に挑戦する『禁煙チャレンジ』を実施しています。参加した社員の半年間禁煙達成率が58.3%、1年間禁煙達成率が41.7%となり、高い禁煙達成率となっています。その結果、全社員の喫煙率は、2018年の30.8%から28.4%に低減しました。また、2020年からは、『スワンスワンの日(禁煙日)』を社内を設定。毎月『2』が付く日を禁煙日とすることで、段階的に禁煙を目指す環境づくりを進めています。

健康管理事業推進委員会

小島健康保険組合が主催となり、保健事業の展開や意見交換を目的に健康管理事業推進委員会を開催しています。オール小島各社が参加し、健康意識の向上を図るため年2回実施しています。2020年は社員の禁煙サポート方法に加え、新型コロナウイルスの感染防止事例をオール小島で共有し、全社のスピーディーな対策実施につなげました。



健康推進のモチベーションを向上

小島健康保険組合では社員の自主的な健康維持・増進活動を促すため、2018年から『健康チャレンジ』を実施しています。これは、開催期間内で連続30日間、自分で決めた健康行動でポイントを貯めてインセンティブを狙うもの。2020年はコロナ禍におけるステイホーム中であっても健康的に過ごせるよう、家庭用ホームページでエアロビクスのエクササイズ動画が公開されました。小島プレスを中心にオール小島合わせて25社313人が参加し、自宅で過ごす時間が増える中でも、運動不足を解消する一助となりました。

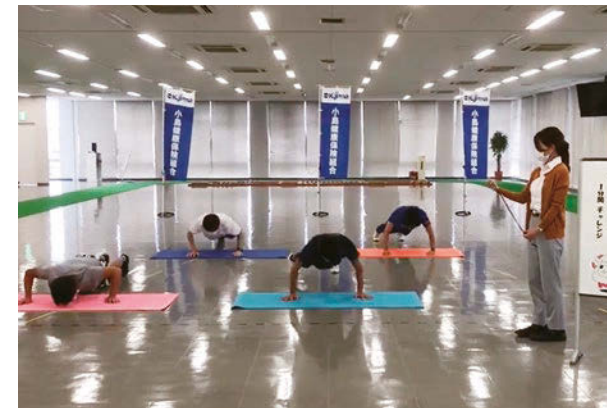
家族やOB・OGの健康支援(※)

リラクゼーション器具やトレーニングマシンなど様々な設備をそろえたこじま健康管理センターでは、社員の配偶者やOB・OGを対象に、平日に無料で施設を開放しています。2020年はコロナ感染症対策として、施設を一時的に閉鎖。コロナ禍以前と同じように幅広い方々に利用される施設を目指し、感染症対策を徹底して再開を計画していきます。



各種スポーツイベントを開催(※)

社員が楽しみながら運動に取り組めるように、こじま杯や小島プレス労働組合主催のスポーツフェスティバルなど年間を通じて様々なスポーツイベントを開催しています。2020年は密を避ける工夫として、健康づくり動画投稿イベントを開催。社員が自宅などで積極的に健康づくりに取り組みました。



社員が投稿した健康づくり動画

現役世代への健康推進に高い評価

小島健康保険組合は、国から現役世代への健康管理に努めている保険組合として認められ、『後期高齢者支援金の減算対象』に選出されました。これは、平成30年度の特定健診・保健指導の実施率向上や、組合加入者への

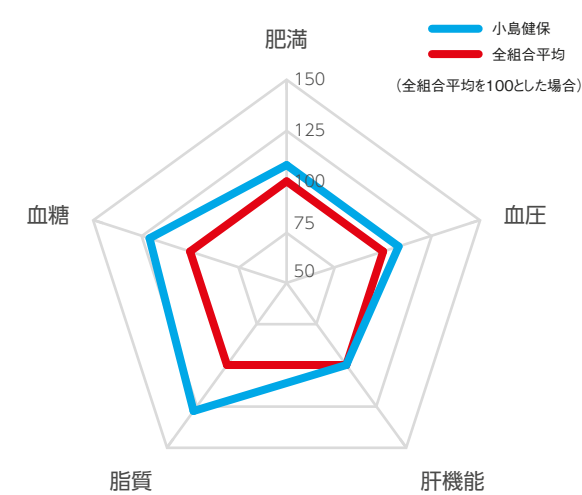
健康経営優良法人2021に認定

経済産業省および日本健康会議が主催する『健康経営優良法人2021』の大規模法人部門の認定を受けました。長期テーマ『人をつくり 人をまもる』のもと、人を大切にしてきた考え方や、社員の健康へのサポート体制が整っていることが評価されました。

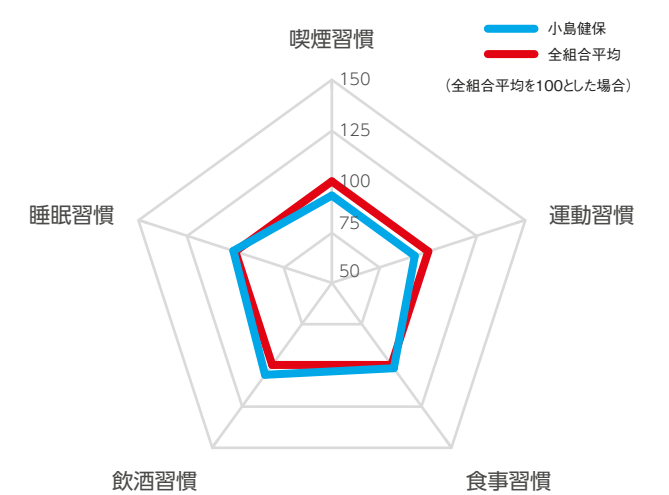


健康保持増進に向けた取り組みが評価され、初めて選出されました。今後も選出され続けられるよう、家族健診の実施率向上と保健指導終了者の増加に向け取り組んでいきます。

●健康状態(数値が高いほど良好な状態)



●生活習慣(数値が高いほど良好な状態)



ガバナンス

当社は長期的な持続的成長を実現するため、また、グループ競争力強化に向けて、コーポレートガバナンスの充実・強化を重要課題として取り組んでいます。

社内コンプライアンス体制

就業規則や服務規程の整備、コンプライアンス教育などの『スタンダード』の徹底とともに、万が一コンプライアンス違反があった場合の体制として、『ホットライン(内部通報制度)』を設置しています。『推進組織』が中心となってこれらのPDCAサイクルを回すことで、社内のガバナンス体制の強化につなげています。

コンプライアンス

当社は地域社会に必要とされ続けるための源泉は『人』であると考え、社員一人ひとりが高い倫理観を持って公正・誠実に行動することを考えており、コンプライアンスの徹底に努めています。

■ ころがけ

社員の必携書として、『ころがけ』をオール小島の全社員に配布しています。『創業者語録』や『人の行動8ヶ条』、『服務心得』など、社員一人ひとりのモラル・行動規範が記載されています。



■ 社内報で啓もう『知る・学ぶ・変わる 一歩』

毎月発行される社内報Relationsには、『知る・学ぶ・変わる 一歩』を掲載しています。この連載の中で、定期的にコンプライアンスの内容を紹介。ウイルスメールやハラスメントなどの身近な課題に対し、取るべき行動の模範例を紹介することで一人ひとりの意識を高めています。



■ 内部通報制度

コンプライアンスに関する問題の早期吸い上げと解決のため、社内・社外にコンプライアンス相談窓口『ホットライン』、社内に『ハラスメント相談窓口』を設けています。通報する社員が適正に保護された状態で通報・相談できる仕組みを整えています。

■ オール小島機密管理強化月間

毎年9月をオール小島機密管理強化月間として、機密持ち込み・持ち出しチェックや機密管理テストを実施しています。これらの活動を通じてルールを再確認し、機密に対する意識付けにつなげています。

■ 新任課長級研修

新たに基幹職になった社員を対象に、新任課長級研修を実施しています。課長級として本人と部下のメンタルヘルスを管理するための基本知識を習得するとともに、労務規定・各種ハラスメント・機密管理についての基本知識を学んでいます。

リスクマネジメント

大規模地震など自然災害の発生を想定し、人命の安全や事業活動への影響の低減を目的とした各種活動に力を入れています。また、『明るく楽しい職場づくり』をキーワードに、全社員の心身の健康を守ること企業使命ととらえています。

安全衛生の教育体系として、新入社員から経営層まで、それぞれの職位・階級に応じた様々な教育を実施。新人は、意識・知識・技能を中心とした教育、上位職になるにつれて、管理を中心とした教育に重点を置いています。このような教育を通じて、『ルールを守れる』、『自分の職場を守れる』、『互いに注意ができる』人づくりに取り組んでいます。

■ 災害に備える

災害時にとるべき行動を全社員が体得することを目的に防災訓練を実施しています。2020年は地震発生時の初期行動を確認するため、緊急地震速報後の0次避難(シェイクアウト)を実施。また、社員寮である誠和寮でも防災訓練が実施され、フロアごとに避難経路を確認しました。

また、帰宅困難な状況などを想定し、社員が生活に困らないよう調理不要の食事や簡易トイレなどの防災備蓄をしています。



非常食や簡易トイレを備蓄



防災訓練(事務所)



防災訓練(工場)



防災訓練(誠和寮)



救命講習

■ BCPWG

各事業所の代表者が集まり、BCPWG(ワーキンググループ)を月に1回開いています。得意先が安心して取引できる、社員が安心して働ける会社を目指し、初動対応手順内容や通信方法などを確認、見直ししています。2020年はBCP対策として、下市場工場発電機トライを実施しました。発電機と成形機を接続し、正常に動作することを確認。停電などの非常時にも生産できる態勢を整えました。



■ 工場安全

トップによる生産現場の『安全点検』を年に2回実施し、各工場のリスクアセスメントの内容や災害対策について確認しています。また、オール小島安全衛生委員会を年3回実施。公開訓練などを通じて安全対策について意見交換し、安全意識の向上につなげています。



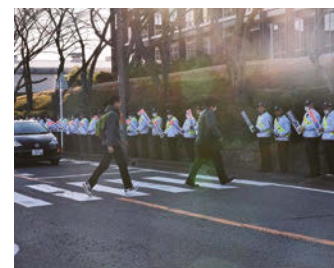
安全点検



公開訓練
(オール小島安全衛生委員会)

■ 交通安全活動(※)

年に3回、各事業所の周辺でオール小島統一立哨を実施しています。この活動は過去の重大事故を忘れず同じ不幸を繰り返さないことを目的に、2011年より始まりました。また、2020年はオール小島統一交通安全活動を実施。各職場で重大事故の振り返りや、交通安全について話し合い、一人ひとりが安全意識を高めました。



オール小島統一立哨



オール小島統一交通安全活動

(※)…新型コロナウイルス感染症対策として、2020年は規模を縮小、または開催を見送り